

図書館だより (第8号)

奈良情報商業高校図書館
令和元年12月発行

クリスマスツリーやイルミネーションが街を飾る心はずむ季節がやってきました。

「本に刺激を受け、本に癒され、本を愛する」
そんな素敵な時間もあればいいですね！

Merry Christmas



冬期休業中の特別貸出について

貸出日：12月10日(火)より

貸出冊数：無制限

返却予定日：1月7日(火)

たくさん借りてくださいね！

図書委員のいちおし図書

(3年6組 大田大和)

『おもしろい! 進化のふしぎ 続々ざんねんないきもの事典』

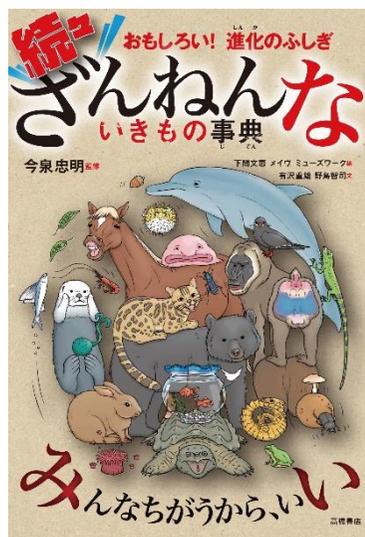
今泉忠明監修 高橋書店

皆さん、一度は動物を見てかわいいと思ったことや面白いと思ったことはありませんか？動物にはアニマルセラピーという言葉があるように、癒しをもたらす効果があるようです。

この本はそんな動物たちの面白いを集めた、「一生けんめいなのにどこかざんねんないきもの達」の本となっています。

どんなふうに「ざんねん」なのか、またもしかしたら有名な動物にあんな一面があったんだ、などわくわくが止まらない本になっています。

一例を紹介すると、「アマエビは年齢で性別が変わる」というものがあります。もしこの文に興味を持った方や、一度は聞いた、読んだことがあるけど忘れてしまったなあという人、動物が好きだ、という人など、様々な人に読んでほしい本です。



リレーコーナー

心を整えるってどういうこと？

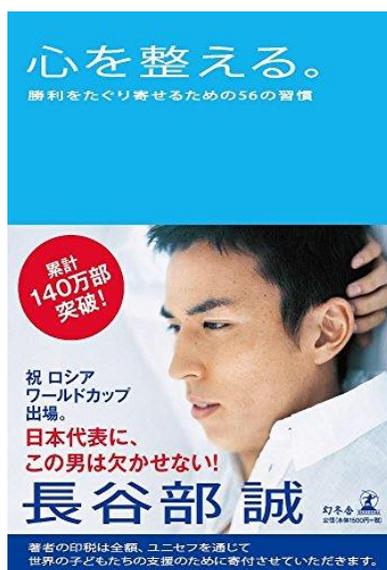
今年も残すところ、あと一か月程度となりました。徐々に寒さも厳しくなっていますが、そんな中でも朝早くから熱心に練習している運動部の生徒達には本当に頭が下がる思いです。筆者は朝起きることすら難しいというのに…

そんな運動部の生徒たちから勝手にエネルギーをもらう今日この頃ですが、最近は日本全体でもスポーツが盛り上がっています。先日のラグビーW杯では日本代表がベスト8、世界野球プレミア12では侍ジャパンが悲願の優勝を達成し、大いに注目を集めました。こういった大会で注目が集まるたびにメディアで話題になるのが、「彼らはいかにして、結果を残せたのか？」ということです。この結果を残せた経緯について選手たちは、よく本に記して私たちに伝えてくれます。そしてその本の内容は、具体的なトレーニングの内容などではなく、精神的な考え方や組織作りに関するものが多く、スポーツをする人に限らず幅広い人々が応用できることが書かれています。今回はそんなスポーツ選手の自伝を紹介します。

私は、根っからのインドア派でスポーツとは縁が無い学生生活を送っていました。しかし、そんな私がスポーツに興味を持つきっかけになった出来事があります。それが2010年に開催されたサッカーFIFAワールドカップです。当時中学生だった私は、前評判を覆しベスト16という結果を残した日本代表の決死のプレーに心を奪われました。大会の熱気が冷めたころ、選手たちは自伝を次々と出版。私も直ぐに書店へ行き本を買って読み漁りました。その数ある自伝の中でも最も心に響いたのが、当時日本代表のキャプテンを務めていた長谷部誠の『心を整える。』(幻冬舎)です。

『心を整える。』というタイトルから、落ち着いた内容が書かれた本かと思いましたが、実際に読んでみるとアクティブな行動に関することからインドアな精神論まで幅広く記されていて、どんな人にも応用できる内容になっています。広い内容のなかでこの本で一貫して主張されている長谷部選手の考え方が、「自信の裏付けとして努力し、経験を積み、決めたことを守る」ということでした。長谷部選手はサッカー選手として突出した能力は持っていません。しかし、コート全体を見渡し、誰よりもチームのためにプレーする彼のスタイルは、長谷部選手に数々の人間と結果を引き寄せました。私はスポーツとは縁がないただの音楽愛好家でしたが、本番のために準備し努力する大切さは楽器も同じ。当たり前のようなことかもしれませんが、改めて心を整えることの重要性に気付きました。また、勉強や普段の生活でも準備し心を整えることはとても大切で、長谷部選手の行動や考え方は広い分野で応用できると実感しました。

今となってはこの2010年FIFAワールドカップも過去の話、長谷部選手も昨年日本代表を引退しました。この『心を整える。』も少し昔の本になりつつあります。しかし、本当に良い本は時間がたった後も多くの人に愛され続けます。私自身社会人になった今でも、この本を愛読し続けています。来年は、遂にスポーツの祭典であるオリンピックが東京で開催されます。きっと多くの選手の自伝が出版されるでしょう。皆さんも、人生の支えや指針になるような本を見つけてみてください！



商業科 三宅 宏和

文化講座を開催しました！（11/22）

身近にある城跡を訪ねて～谷城を例に～ 講師：高谷伸也先生（商業科）

戦国時代末期から江戸時代にかけて築城された「天守」を象徴する城（姫路城や大阪城など）またそれ以外の山城や幻想的な城跡（竹田城跡）について、沖縄のグスク、北海道アイヌのチャシ、朝鮮半島に残る倭城などを紹介していただいた。城跡には約 5000 か所訪ね歩いておられる様子。石垣や土塁、堀などお城の見どころや、桜井市内や奈良県内にもたくさんの城跡があり、桜井駅をまっすぐ南に道沿いに歩いていくと谷氏が築城した谷城跡があり、現在は若櫻神社が創建されていることなど教えていただいた。通学途中にあるのでぜひ立ち寄りいただきたい。

最後に質問があいつぎ、参加者たちが城へかなり興味を持った様子がうかがえた。

奈良県内でおすすめの城跡は宇陀松山城（秋山城）とのこと。また北朝鮮にある城跡にぜひ行きたいと話されていた、高谷先生のお城愛を存分に感じさせてもらった貴重な講演だった。



若櫻神社



〈参加者の感想から〉

- 初めてお城について深く学ぶ機会になり、お城も国によって違いがあることがわかり面白かったし、お城に行きたくなりました。
- 歴史的建造物が好きで、近くの神社やお寺によく友達と行きます。歴史好きな叔母に大阪城や名古屋城に連れて行ってもらったのですが、また違った特徴の城があるのは初めて知りました。
- 今まで城というのは天守閣があるものだけだと思っていたけど、土塁も城のひとつなんだなあ興味がありました。
- よく遊びに行っていたところが城跡…雷城（万葉集にも出てくる雷丘に築かれた城）だったとは初めて知りました。話を聞くのがとても楽しかったです。
- 桜井市（10 か所）や奈良県内など身近にお城の存在がたくさんあることに驚きました。お城を守ることが一番重要視されて建てられていることもわかり新たな発見がありました。
- 講座で谷城を見たとき土塁の量が多く、踏み固めて作った様子なので、それだけすごい城が出来ていたのかなと考えたら楽しくなってきました。実際に行ってみたいです。
- 実際に帰りに若櫻神社に寄ってみました。堀のようなものが残されていて驚きました。

朝読を実施しました！（11/11～11/15）～読書週間に寄せて

朝のHRが始まる前5分間に朝読を実施（1・2年各教室にて）

『生き物の死にざま』 稲垣栄洋（ひでひろ）著 草思社 より抜粋

*ニワトリ…出荷までの四、五十日間

*イヌ…ヒトを必要としたオオカミの子孫の今

*ウミガメ…海と陸の危険に満ちた一生

*ネズミ…実験室で閉じる生涯

*ハサミムシ…子に身を捧ぐ生涯

〈みんなの感想から〉

- 「我々人間、いや、動物が生きていく過程において他の命を奪い自らが頂くことは仕方ないと思う。しかし他の命をもらうため、その生き物たちに感謝をしたい。」
- 「イヌは一万五千年前から、理由は様々だが、現代まで人に飼われて愛されているのは凄いいことだと思う。一度飼ったイヌは責任を持って最期まで育ててほしい。」
- 「人が快適に暮らすための開発もウミガメにとっては命の危機に繋がるし、人と動物が共存できる環境づくりが必要だと感じた。」
- 「実験されている生き物の命のおかげで、私たち人間の治療薬が作られているということに心におさめながら、生き物の命に感謝しなければならない。」
- 「自分の子の命を繋ぐために、自分の身を犠牲にするハサミムシの母親がどんな思いでいるのかも知りたくなった。ハサミムシの人生は残酷だと思った。」
- 「我が子のために自分の体を差し出す母親の姿にとっても感動した。最後まで責任を持って我が子を育てる姿を尊敬する。」

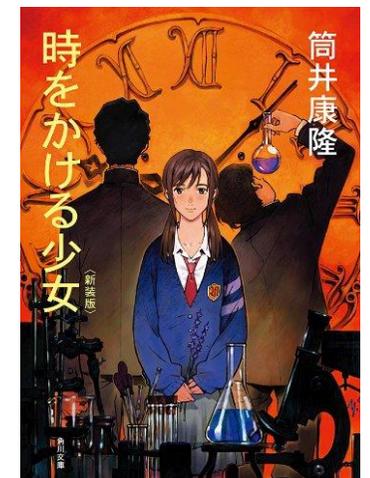


図書委員のいちおし図書

（3年6組 高丸宇宙）

ある日理科実験室でラベンダーのにおいを嗅いでから時を自在に操れるようになった少女の物語。

最初は自分の意志で操れなかったタイムリープも、物語が進むにつれ、徐々に自分の意志で自在に操れるようになっていき、この不思議な能力を手に入れたいきさつを探るべく4日前の理科実験室で正体不明の訪問者を待ち受ける。そして、そこを訪れたのは…。半世紀近く前に刊行された小説ですが、2、3年前にテレビドラマが放送されました。ぜひ一読を！



『時をかける少女』新装版
筒井康隆著 角川文庫
KADOKAWA